



清音、総社間を走る井原線

大熊 公平

井原線の清音・総社の減便について

問 井原鉄道(株)は、沿線企業の不況などで利用客が減少し、今年度の収支は1億6700万円の赤字となると経営状況を発表された。経営陣は、利用促進や経費削減に努めると言っている。

答 井原線踏切が長いのはよく知っている。伯備線の使用料も1便減らせば安くなるというのも確かだが、全部なくすとなると清音駅付近へ操車場や格納庫設置の資金問題もある。現時点では、減らすのはたやすいことだが、井原市長と相談して乗客を増やすことの工夫がないものか考えたい。(市長)

いる。開業以来、清音・総社間の利用客は極めて少なく、踏切問題等の改善もされていらない。さらに減便を図り、JR線路利用料金(現在4300万円)の削減による経営改善を言っている。どうか。

秋山 律郎

総合計画後期基本計画について

問 消防、医療の連携強化による救急搬送の取り組みについて、どのように把握し、対応を考えているのか。

答 吉備医師会の協力による輪番制・救急指定病院の24時間体制などにより、総社市消防の救急車の発動回数が1日平均6・4回に減っていること、現行の救急救命士23名をさらに平成22年秋ごろには24名体制にして、高規格救急車5台回しということが実現するので、最も人口が多いエリアの救急に基本的に務め

問 総合計画は、市政推進の指針となる最も基本的かつ重要な計画である。平成23年度からの5か年の後期基本計画を策定するにあたり、現在の総社市の状況と課題を市長はどのように考え、認識しているか。

答 将来的に道州制、さらなる合併ということが予想されるかもしれないが、総社市という形で残していきたい。総社市が伸びゆく形にして子々孫々にバトンタッチしていきたい。私の役割として一つは政治問題の解決があった。新架橋問題、医療問題、ユニチ

るといふ体制を整えることによつて重複患者の解消ができるシステムというものが成り立っていく。そして、また今回のその救急搬送体制では、総社市の医療機関を経由することなくダイレクトに倉敷中央

カの土地の問題である。これら3点については、それなりの方向性、道筋というものが見出せかけている現状だと認識している。もう一つの大きな役割は、行政問題をそれぞれの切り口をとらえて新しい課題、テーマ、ルールを作り、スタートさせる役割である。環境問題、子育て王国そうじゃ、観光プロジェクト、新農業会議、職員改革、高齢者問題、教育などを新たなものとして、将来的に実りを得られるようにスタートさせる役割だと自認してやってきた。それぞれが近々に果実を得られるもの、中・長期的になるもの、あるいは遠い将来になるもの様々であると思うが、これらの課題をこの後期計画に織り込むべきだと感じている。

高梁川の立木伐採による希少動物の保護について

問 1月末まで、高梁川の立木を希望者に自由に伐採、利用させる計画を国土交通省が発表した。これは、河川の維持管理コストの削減と材木資源活用の伐採と一石二鳥のアイデアで、要望もあり人気もある。しかし、この地域には絶滅危惧種指定のオオキトンボなど県内93種のうち44種類のトンボが確認されている。環境保護に力を入れている本市にとって、希少動物の保護は重要だ。高梁川の管理を全て国に任せきりというのはどうしたものか。

答 絶滅危惧の存在というのも事実だが、やはり護岸、災害などの見地から今回の伐採には整合性がある。(市長)

今年度は地域の方に伐採にかかわっていただき、少しでも経費削減を図るもので、治水上必要な範囲で伐採するのが趣旨だ。その際の区画の設定は、有識者の意見

病院、川崎医大に行くというシステムも完備し、さらにはドクターヘリの運航というものをさらに増やしていくということでも対応していく。(市長)

また、地域主義ということとは私の原点でもあるので、市内の地域格差をできるだけは是正できるように総合計画に意識をもつてやっていきたい。(市長)

上高末総社線バイパスについて

問 県道上高末総社線は、この路線の中で新本地内に一部未改良部分がある。一部が通学路でもあり、狭く危険な場所もある。幹線道路でもあり、地元からも改良の要望も出している。県道であるが、事業化の見通しはどうか。



整備が認可された西出張所以西の上高末総社線。バイパスとして改良される

答 西出張所から西へ延べ、バイパスの整備事業として岡山県が認可することになった。今は事業着手に向けて測量調査を行うとともに、地元住民の意見や要望を聞きながら、整備計画を策定する予定となっている。(市長)

中村 吉男 総社駅南地区 土地区画整理事業について

問 総社駅南地区土地区画整理事業は、平成3年から22年で、面積52.2ha、総事業費12.1億円の計画で事業を行っている



区画整理が進む総社駅南地区

を聞き、希少野生動物への影響を配慮したものになっている。現在、公表は控えているが、河川事務所では管理に必要な調査ということで、河川内の生物の状況を「水辺の国勢調査」の名で希少動物などの生息状況の調査を広く行っている。

今後は、河川の治水、利水という管理だけでなく、環境に配慮した高梁川の管理がどうあるべきか市民から意見も聞き、河川の管理に反映されるようにしたい。(副市長)

が、まちづくり交付金事業が見直しされると聞いている